

第2章 臼杵市の子ども・子育て家庭を 取り巻く現状と課題



臼杵市の少子化の現状では、30年後には子どもの数が約半数に減ってしまいます。こうした少子化の流れに歯止めをかけるため、様々な施策を展開し、合計特殊出生率の好転と人口移動率（流入人口－流出人口）の好転を目指すことが、持続可能な臼杵市のまちづくりにつながっていきます。





第1節 少子化の現状と将来人口推計

(1) 人口の推移

平成26年10月1日現在の臼杵市の総人口は、41,129人となっています。このうち、15歳未満の年少人口は4,580人で、総人口の11.1%となっています。また、15歳以上65歳未満の生産年齢人口は、21,917人で、53.3%、65歳以上の人口は14,632人で35.6%となっています。本市でも少子高齢化が進んでいます。

人口推移と少子化動向

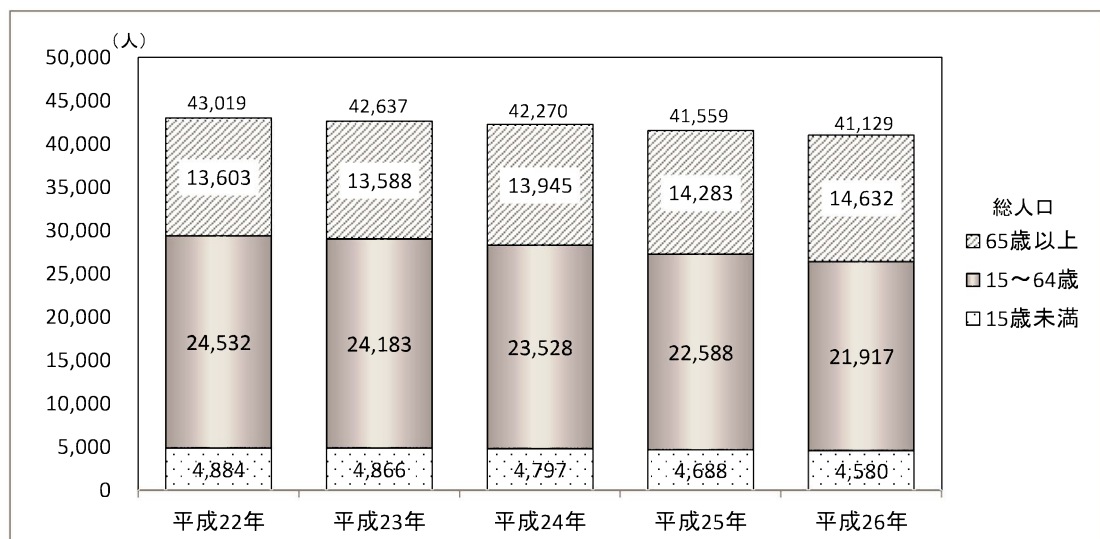
(単位：人)

区分	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年
総人口	43,019	42,637	42,270	41,559	41,129
15歳未満	4,884 11.4%	4,866 11.4%	4,797 11.3%	4,688 11.3%	4,580 11.1%
15～64歳	24,532 57.0%	24,183 56.7%	23,528 55.7%	22,588 54.4%	21,917 53.3%
65歳以上	13,603 31.6%	13,588 31.9%	13,945 33.0%	14,283 34.4%	14,632 35.6%

資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

※外国人登録法の廃止に伴い、平成24年からは外国人人口を含んだ数値です。

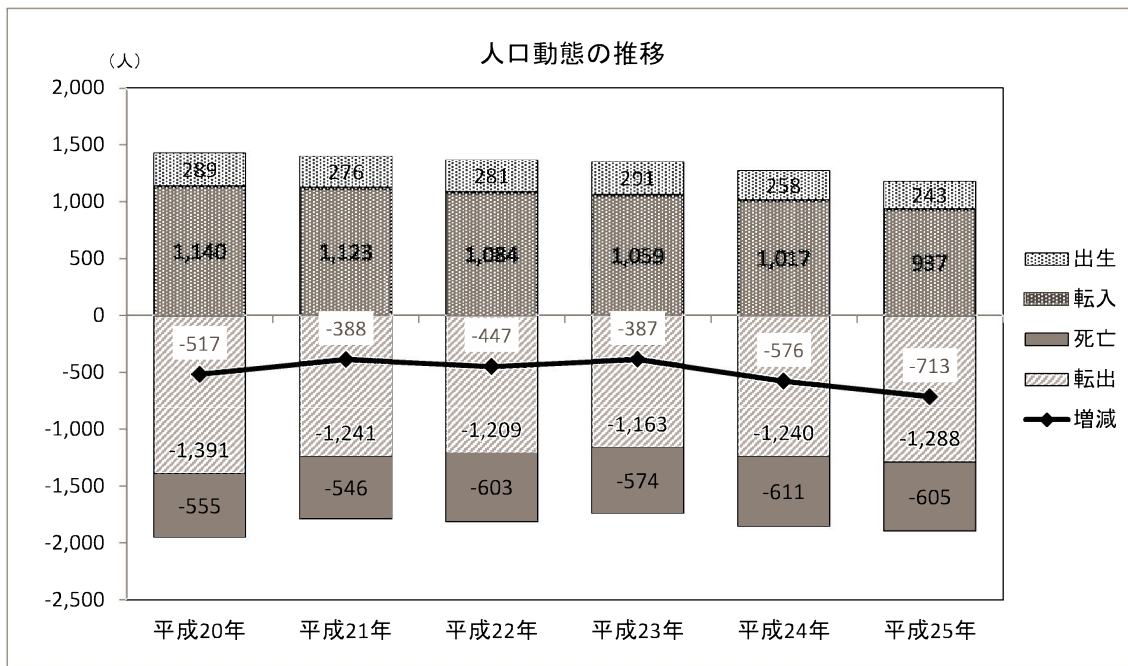
(外国人登録数) 平成24年：181人 平成25年：135人 平成26年：189人





(2) 人口動態の推移

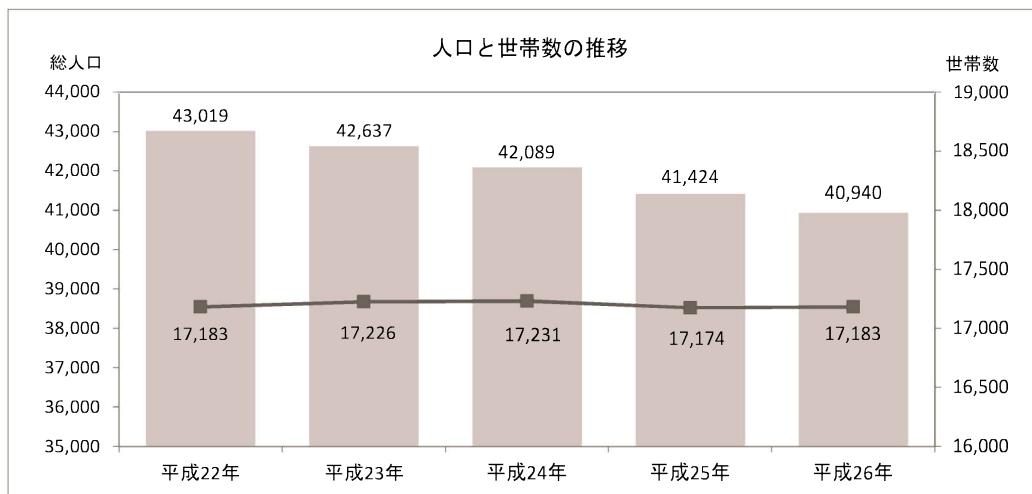
白杵市の人口動態の推移を要因別にみると、社会動態は増加要因（転入）と減少要因（転出）では転入より転出が上回っており、自然動態でも常に減少要因（死亡）が増加要因（出生）を上回っており、人口が減少し続けています。



資料：大分県 毎月流動人口調査（各年10月1日現在）

(3) 世帯の推移（核家族化）

人口が減少する中で世帯数は平成24年までは増加しており、核家族化が進んでいます。平成25年には、人口の減少とともに世帯数も減少しています。



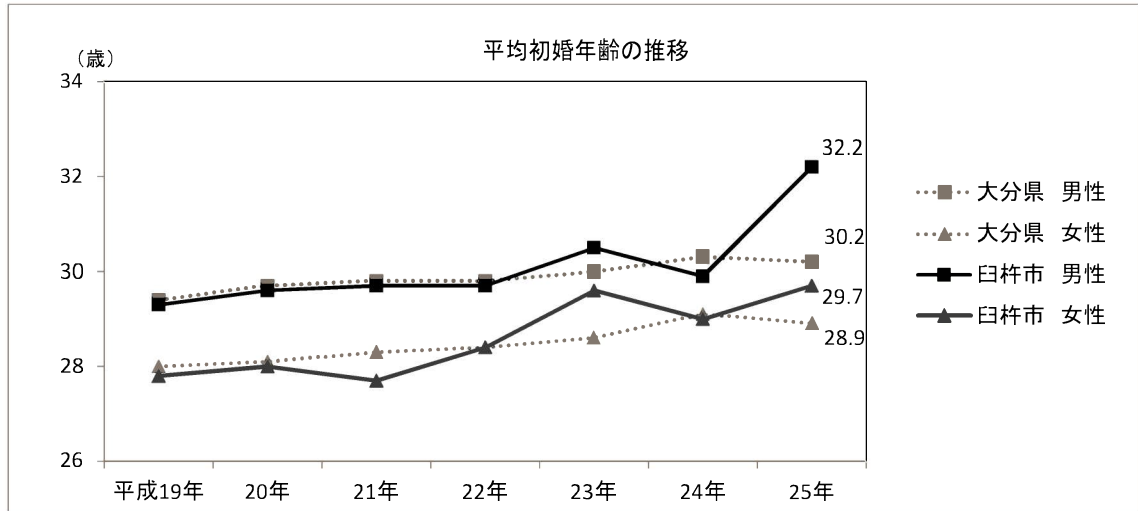
資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

※各年、外国人人口を除いた数値です。



(4) 結婚年齢の晩婚化

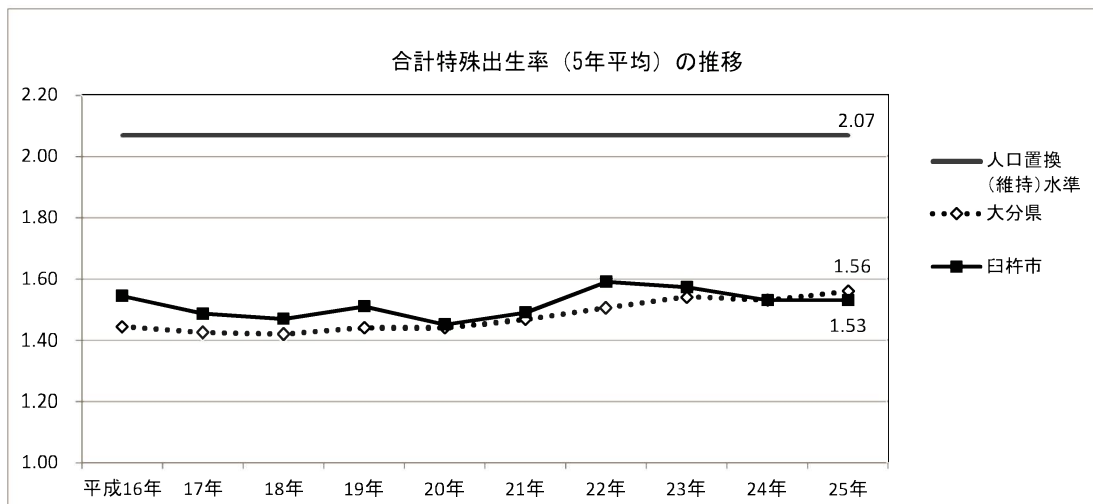
日本人の平均初婚年齢は、平成25年で男性が30.5歳、女性が28.8歳となっており、晩婚化が進んでいます。臼杵市でも、男性が32.2歳、女性が29.7歳と初婚年齢が上がり、晩婚化が進んでいます。



資料：大分県公衆衛生年鑑

(5) 合計特殊出生率の推移

臼杵市の合計特殊出生率は、平成23年までは大分県平均よりやや高めに推移していましたが、平成24年は1.53と大分県平均に並び、平成25年は1.53と横ばいで大分県平均を下回りました。人口減少を食い止める人口置換水準の2.07には及ばない状況です。



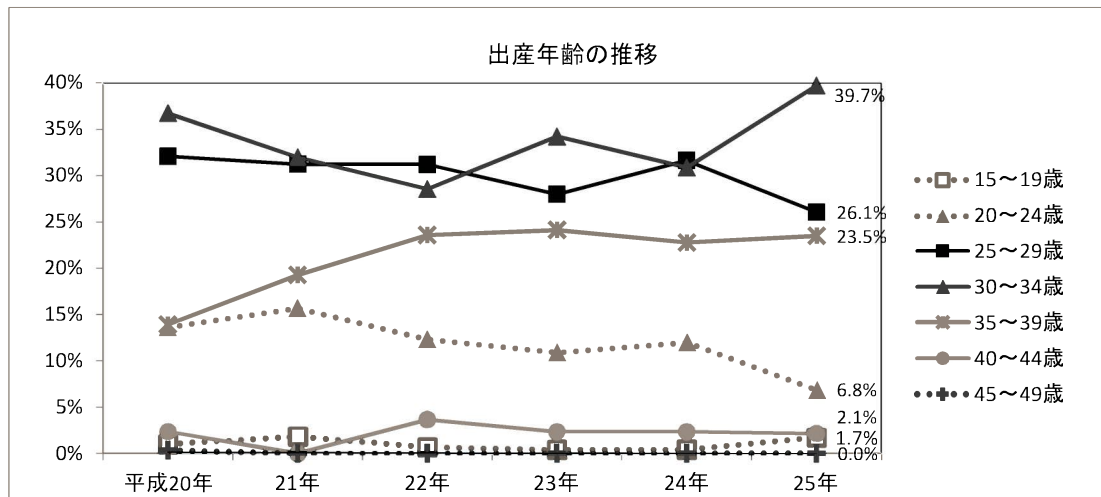
資料：大分県公衆衛生年鑑

合計特殊出生率は、既婚者・未婚者に関わらず15歳から49歳のすべての女性の人口を用いることから、有配偶率（婚姻率）により影響を受ける部分と、有配偶者がどのくらい出産するかという有配偶出生率により影響を受ける部分とに分けられます。



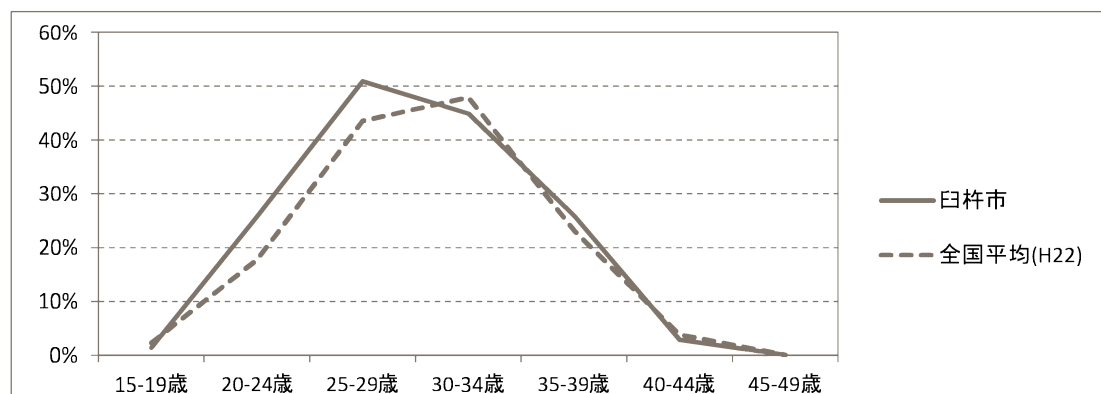
(6) 晩産化

平成 24 年の出産年齢は、25 歳～29 歳が最も多く、次に 30 歳～34 歳、35 歳～39 歳の順になっており、若い 20 歳～24 歳は少なく、高齢出産が年々増えています。

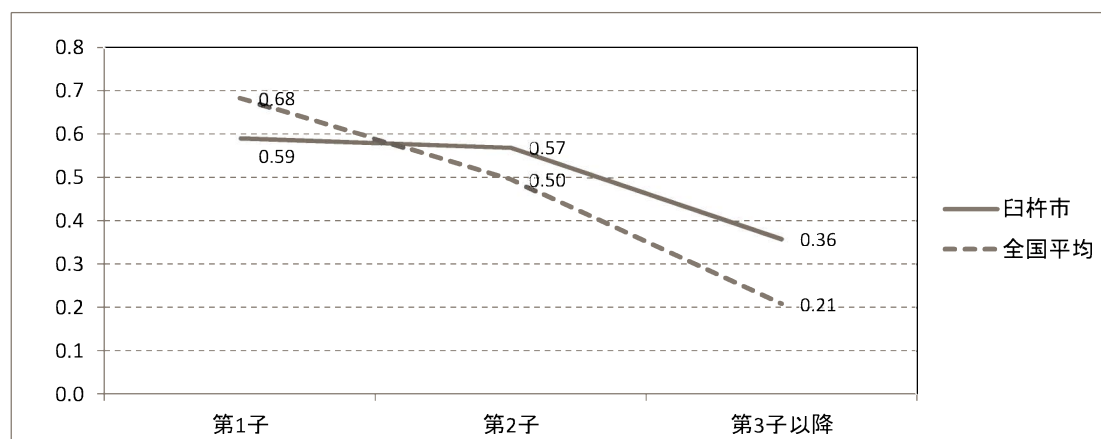


資料：保健所提供

第 1 子出産年齢の全国平均との比較



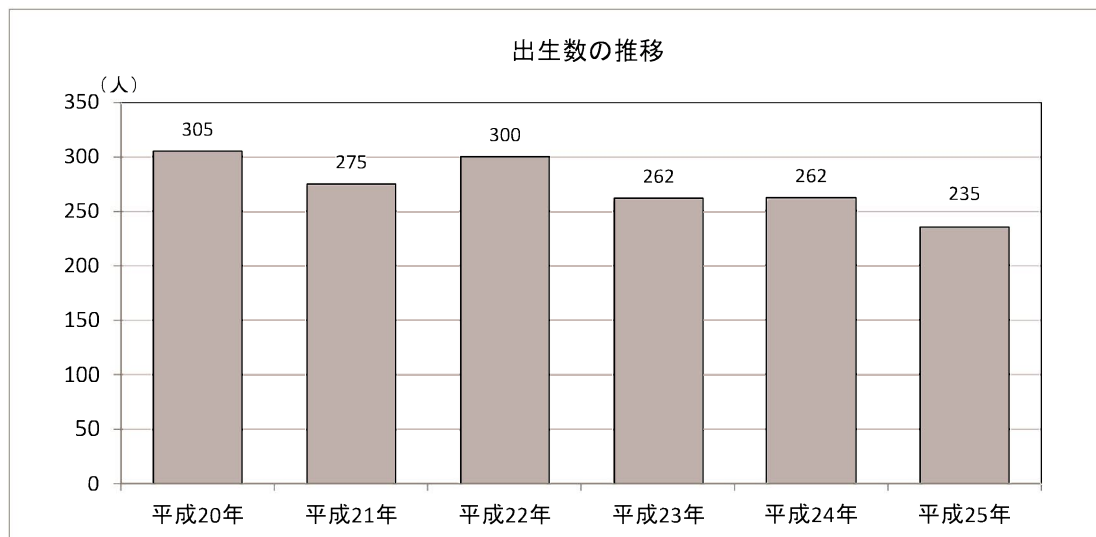
合計特殊出生率を子どもの出生順位別にみると、第 1 子出産は全国平均より低く、第 2 子、第 3 子の出産は顕著に高くなっています。





(7) 出生数の推移

年間の出生数は、平成20年から300人前後を減少傾向で推移していましたが、平成25年には初めて250人を割りました。今後も減少が進んでいくと予想されます。



資料：住民基本台帳（各年1月1日から12月31日まで）





(8) 将来人口の推移

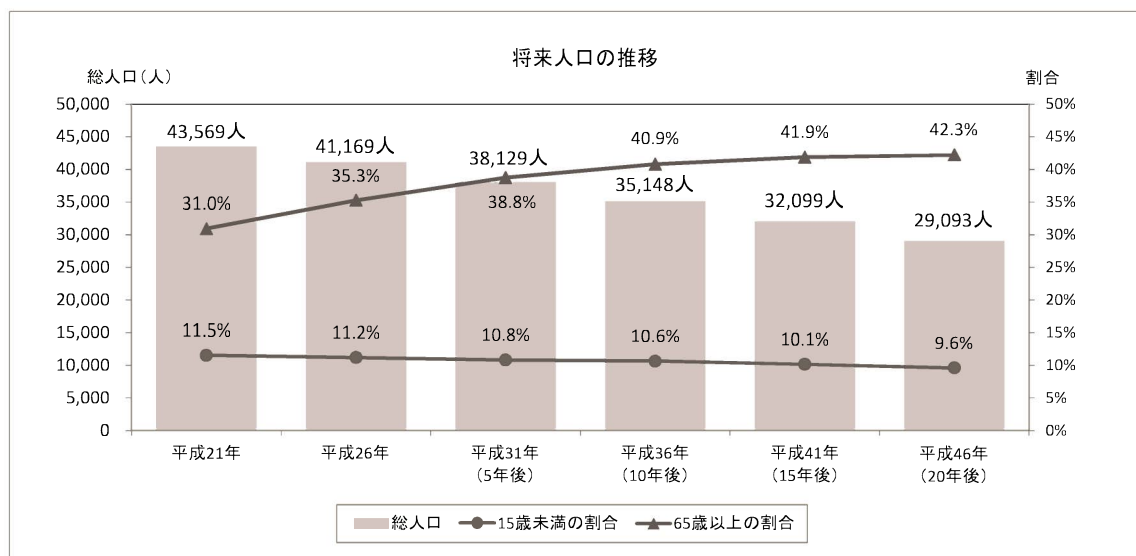
臼杵市の過去の人口推移を基に、その推計を行った結果が下図になります。臼杵市の人口は年々減少しており、平成31年の推計人口は、38,129人になると予想されます。また、平成31年の年少人口（15歳未満 10.8%）は、4,130人になると予想されます。

区分	平成21年	平成26年	平成31年 (5年後)	平成36年 (10年後)	平成41年 (15年後)	平成46年 (20年後)
総人口	43,569	41,169	38,129	35,148	32,099	29,093
15歳未満	5,024 11.5%	4,607 11.2%	4,130 10.8%	3,739 10.6%	3,257 10.1%	2,794 9.6%
65歳以上	13,492 31.0%	14,539 35.3%	14,790 38.8%	14,359 40.9%	13,465 41.9%	12,299 42.3%

※平成21年、平成26年は住民基本台帳における4月1日現在の数値です。

※人口推計は、コーホート要因法で推計した結果です。

※人口推計は、日本人人口のみで推計した結果であり、外国人人口は加味していません。



現状のまま臼杵市の人口減少が進めば、20年後には、人口は3万人を切ることが予想されます。

その要因は、①合計特殊出生率が2.0を下回っている事と、②20歳前後の人口流出が著しく、子どもを産む世代が急激に減少するためです。

(参考)

現在1.5程度の合計特殊出生率が、人口置換水準の2.1まで回復し、人口の流出を今よりも4割程度減った場合、30年後の子ども数は、現在の70%程度（3割減）にとどまると見込まれます。

子どもの数を増やすことは厳しいですが、処々の施策を展開することで、子どもの減り方を抑えることは可能で、持続的なまちづくりを進める中で、非常に重要です。